

クロラントラニリプロール・ジノテフラン水和剤 キックオフ顆粒水和剤	取扱メーカー： 三井アグロ 原体メーカー： FMC, 三井アグロ
成分： クロラントラニリプロール〔アントラニリックジアミド系〕…4.0% ジノテフラン〔ネオニコチノイド系〕……………15.0%	性状： 類白色水和性細粒 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 育苗トレイ（セルトレイ・チェーンポット・ペーパーポットなど）に灌注する殺虫剤で、トレイ全体に均一な処理がしやすく、かつ省力的である。
- コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、カブラヤガ、ナモグリバエ、アブラムシ類の防除が可能である。
- 有効成分が植物体内に速やかに吸収され、定植後まもなく殺虫・被害抑制効果が発現し、かつ長い残効を示す。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイ又はペーパーポット上方から灌注する。また、本剤が土壌に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさける。
- はくさいに使用する場合は、軟弱徒長苗、高温乾燥時、あるいは過剰使用により、葉緑が退色するなど薬害を生じるおそれがあるので、健苗を用意して、適切な温度管理に努め、所定の使用液量、濃度、使用時期を厳守して使用する。

【安全対策上の注意】……………

- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。使用後は洗眼する。
- 甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにする。
- 共通注意事項7. ミツバチに対する注意事項を参照。



【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロラントリニアロール を含む農業の総使用回数	ジノテフランを含む 農業の総使用回数
か き	コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ カメムシ類 アザミウマ類 ケムシ類	2000 倍	200～700 ℓ /10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内	4回以内 (塗布は1回 以内、散布は 3回以内)
キャベツ	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ アザミウマ類	100 倍	セル成型育苗 トレイ1箱 又はペーパー ポット1冊 (30×60 cm・ 使用土壌約 1.5～4.0 ℓ) 当り 0.5 ℓ	定植前日 ～定植時	1 回	灌注	4回以内 (定植時まで の処理は1回 以内、散布は 3回以内)	3回以内 (育苗期の株元 散布、定植時 の土壌混和及び 灌注は合計 1回以内、散布 は2回以内)
はくさい	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ							3回以内 (定植時の土 壌混和及び 灌注は合計1 回以内、散布 は2回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ヒメダイコンバエ							4回以内 (は種前の培 土混和は1回 以内、育苗期 の株元散布、 定植時の土壌 混和及び育苗 トレイへの灌 注は合計1回 以内、散布は 2回以内)
レタス	アブラムシ類 オオタバコガ カブラヤガ ナモグリバエ ハスモンヨトウ						4回以内 (灌注は1回 以内、散布 は3回以内)	4回以内 (は種時の土 壌混和、育苗 トレイへの灌 注及び定植 時の株元散布 は合計1回以 内、生育期の 株元灌注は1 回以内、散布 及び定植後の 株元散布は合 計2回以内)
非結球 レタス								
ね ぎ	ハモグリバエ類 アザミウマ類 シロイチモジヨトウ							
さとうきび	カンシャコバネナガカメムシ サトウキビチビアザミウマ アワヨトウ イナゴ類 アブラムシ類 メイチュウ類	2000 倍	100～300 ℓ /10a	収穫45日 前まで	3回 以内	散布	4回以内 (粒剤は1回 以内、水和剤 は3回以内)	5回以内 (粒剤は2回 以内、液剤、 水溶剤及び 水和剤は合 計3回以内)